

当事者と治療者が一緒に考える 新しい治療方針決定とは

～“シェアード ディシジョンメイキング(SDM)[共同意思決定]”の普及に向けて～

日時 2025 7/12(土) 15:00～16:45

場所 浜松町コンベンションホール 5階 メインホールA【第1会場】

〒105-0013 東京都港区浜松町二丁目3番1号 日本生命浜松町クリアタワー5階

現地開催 事前登録制 // 参加無料

《対象》一般市民の皆様(事前登録制)どなたでもご登録いただけます。

プログラム

大会長挨拶 順天堂大学医学部精神医学講座 主任教授 加藤 忠史 先生

講演

司会 順天堂大学医学部精神医学講座 主任教授 加藤 忠史 先生

講演 1

当事者と治療者が一緒に考える “シェアード ディシジョンメイキング”共同意思決定とは

杏林大学医学部精神神経科学教室 教授 渡邊 衡一郎 先生

講演 2

一緒に決める医療のためにーディシジョンエイドの活用

聖路加国際大学大学院看護学研究科 精神看護学 准教授 青木 裕見 先生

パネル ディス カッション

司会 一般社団法人日本うつ病センター(JDC)名誉理事長 樋口 輝彦 先生

当事者と治療者が一緒に治療方針を決定するとは

まあ様 ReOPA

野間 慎太郎 様 オンラインフリースペース『ハマツチャ』共同代表

渡邊 衡一郎 先生 杏林大学医学部精神神経科学教室 教授

青木 裕見 先生 聖路加国際大学大学院看護学研究科 精神看護学 准教授

閉会のご挨拶

一般社団法人日本うつ病センター(JDC)名誉理事長 樋口 輝彦 先生

参加申し込み
について

- ▶参加費：無料
- ▶定員：200名
- ▶対象：一般市民の皆様(事前登録制)
学会参加の方は、学会HPよりお申込みください。

▶申込先：下記URLまたは
二次元コードよりご登録ください。
<https://mice.radapps.jp/jsmd22-koukaikouza/>



開催にあたって

今日のうつ病の治療薬や治療法の選択肢は以前よりも増えており、これからも増えることが予想されます。これまでは主に医師が治療法、治療薬を決定していましたが、最近では治療法、治療薬の選択を治療者に委ねるのではなく、当事者が自らの希望や目標を共有しつつ、治療者と共に治療の方針を決定するやり方が一般的になりつつあります。

実際に、当事者が治療方針の決定に関与して治療を行うことが有用であるという研究報告もあり、すでにわが国の精神科医療における様々な疾患の治療ガイドラインには、「治療方針はSDM*で決める」と明記されるようになりました。(*SDMとは、共同で方針を決定することを意味します)

ディシジョンエイドと呼ばれるツールを用いた意思決定支援を採用する取り組みもあります。この実装化への期待が一層高まっていますが、この認識や変化は医療側のみならず当事者や一般市民にも求められます。本講座にて、当事者が治療方針にどのように関わるのかを知る／創造する機会にして頂ければと思います。

一般社団法人日本うつ病センター(JDC)名誉理事長 樋口 輝彦 先生

講演

1

『当事者と治療者が一緒に考える “シェアード ディシジョンメイキング” 共同意思決定とは』

杏林大学医学部精神神経科学教室 教授 渡邊 衡一郎 先生

[抄録]

近年、医療の現場で「Shared Decision Making (SDM:共同意思決定)」が注目されています。これは、当事者と治療者が対等に話し合い、意見や価値観を共有しながら治療方針を決める方法です。一方的に治療者が決めるのではなく、当事者自身が主体的に関わることを重視しています。特に、複数の選択肢があり、どれを選ぶかが当事者の価値観に大きく関わる場面で有効です。精神医療の分野でも、統合失調症やうつ病などにおいて、リカバリー（回復）につながる可能性が指摘されています。SDMでは、パンフレットや動画といった「ディシジョンエイド(DA)」を活用し、すぐに答えを出す必要はなく、時間をかけて判断することが推奨されています。本講演では、現場での経験を交え、当事者の皆さまがより納得し、自分に合った治療を見つけるためのヒントをお伝えしたいと思います。

講演

2

『一緒に決める医療のためにーディシジョンエイドの活用』

聖路加国際大学大学院看護学研究科 准教授 青木 裕見 先生

[抄録]

病院で診察を受けるとき、治療について「どのように決めたい」と思いますか？

国内で行われた調査では、多くの人が「医師と相談しながら決めたい」と答えており、70歳以上でも「医師にお任せしたい」という人はごく少数でした。一方、うつ病治療を受けている方々を対象とした調査によると、約7割が医師に本音を言えなかった経験があるといえます。

こうしたすれ違いを防ぐために、「一緒に決める」という姿勢を、医療者はもちろん、一人ひとりが心掛けたいと思います。「一緒に決める」ための手助けをしてくれるディシジョンエイドというツールもあります。これは、治療の選択肢と各選択肢の長所・短所がわかり、「自分にとって何が大事か」を考えながら、治療を選ぶことができるツールです。

私たちはこれまでに、うつ病、注意欠如・多動症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に関するディシジョンエイドを作成してきました。当日はこれらのツールをご紹介しながら、「一緒に決める医療」に近づくために、どのような工夫ができるかを一緒に考えてみたいと思います。